

令和7年2月25日

加西市議会議長 丸岡弘満 様

清流会・かさいを育む会
幹事長 森元 清蔵

調査研究報告書

下記のとおり行政視察研修を行いましたので、報告いたします。

記

1. 調査年月日 令和7年2月6日（木）～2月7日（金）
2. 視 察 先 鳥取県八頭町、米子市
3. 出 席 者 佐伯欣子・森田博美・森元清蔵・下江一将・橋本真由美・深田照明
4. 視察内容等
 - ◇鳥取県八頭町 2月6日（木）14：00～15：30
（視察項目） 隼Lab. の取り組みについて
（視察対応者） 企画課地域戦略室 山田 主幹
議会副議長 奥田のぶよ
（視察内容） 別紙
 - ◇米子市 2月7日（金）10：00～11：30
（視察項目） 5歳児健康診査（5歳児よなごっ子健診）の取り組みについて
（視察対応者） 議会事務局 松田 局長 田中係長
こども総本部こども相談課 松竹 課長 山川 課長補佐
日浦 主任 小林 保健師
（視察内容） 別紙
5. 所感 (別紙)
6. 添付資料
 - ① 視察行程表
 - ② 研修資料
 - ③ 写真

(視察内容)

八頭町 (鳥取県)

【視察項目】 隼 Lab. (ハヤブサ ラボ) の取り組みについて

【目的】 学校跡地利用の内容と取り組み状況を学ぶ

【内容】

◎人口 15,453 人 世帯数 6,063 世帯 (2025 年 1 月現在)

面積 206.71 km² 高齢化率 36% (2021 年統計調査)

- ・ 県庁所在地の鳥取県に隣接し、同市のベッドタウンとして発展
- ・ 国定公園の扇ノ山など 1,000m を越える山々に囲まれ、柿や梨の栽培が盛んなフルーツの里

◎行政の背景

- ・ 第 1 期総合戦略の策定(2015 年 9 月)

産官学金労言に子育て団体、元地域おこし協力隊の移住者等が参画する策定委員会、公募町民の検討委員会、若手職員 P T、高校生との意見交換会など、幅広い検討体制で議論

- ・ 重点取組事項「八頭イノベーションバレーの創設」

学校の跡地など空き施設を活用し、企業等の本拠から離れた場所に設置するオフィス(サテライトオフィス)の開校など情報関係企業等の誘致を行い、新たな雇用の場を創出し、革新的な起業家が活躍・発信するまちの創設を目指す。目標：誘致企業 5 社(1 社/年)

- ・ 地方再生人材制度(内閣府)の活用

厚生労働省の職員を地方創生監(常勤)として 3 年間受け入れ

◎地域(隼地区)の背景

- ・ スズキのバイク「Hayabusa」の聖地
- ・ 若者の挑戦を地域住民が支える土壌
- ・ 隼小学校(現隼 Lab.)の開校

思い出のつまった小学校を閉校後も活用したいという強い要望

◎計画・準備段階からの民間の参画

2014 年…関係者協議開始

2015 年…八頭町 SB ヒューマンキャピタル(株) に企画立案及び推進業務を委託

事業プランの策定(先行的な企業誘致、住民参加の協議会)

2016 年…まちづくり事業会社設立準備委員会 ※複数の民間企業、鳥取銀行も参画

事業プランの具体化、運営会社の設立検討

2017 年…(株)シーセブンハヤブサ設立

3 月 隼小学校閉校(リノベーション工事 9 ヶ月)

12 月 隼 Lab.オープン(コミュニティ複合施設)

- ・ 民間企業と一緒にプロジェクトを進めたことによるメリット

ソフト面…オープンから 3 年以内に満室状態を達成

ハード面…運用に直結する、魅力ある施設になる

◎隼 Lab.整備費用

①設計監理 13,965 千円 ①～③地方創生拠点整備交付金

②本体工事 100,440 千円 補助率 1/2 補正予算債充当

③備品購入 30,770 千円

④拡充工事 37,460 千円……地方創生拠点整備交付金

(1 階増築部分等) 補助率 1/2 一般補助施設整備等事業債充当

◎行政(八頭町)×民間企業(シーセブンハヤブサ)の共通目標

隼Lab.を拠点に、持続可能な未来のモデルとなる田舎をつくる

◎隼Lab.運営体制

■(株)シーセブンハヤブサ⇒隼Lab.オープンに先立ち、2017年4月に会社設立

計画段階から参画した7社の民間企業が出資 ・町からの出資なし/指定管理や運営委託も行わない

■隼地区及び隼Lab.連携運営協議会

- ・(株)シーセブンハヤブサ、隼創生会(地域)、行政で構成
- ・隼Lab.コミュニティゾーン(地域利用スペース)の円滑な運営を実現
- ・地域と連携した事業展開を実施

◎隼Lab.運営の状況

- ・約40企業が入居 ・就業者数50人/日、来場者数6.6万人/年
- ・企業・創業数16件
- ・グラウンドを「隼PARK」としてPR
- ・隼PARK OFFICE

2021年3月にグラウンドにユニットハウス式のオフィスを3棟整備

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用

- ・お菓子とドーナツと本の店ポトラ

運営会社の独自事業としてオープン(2022.8～2024.5)

◎八頭LOCAL WORKATION

- ・ワーケーションモニターツアー

シーセブンハヤブサが、目的やイメージに合わせて、宿泊場所や旅程を提案・サポート

1組あたり10万円補助し、隼Lab.の利用料無料 令和4年度から年に3組の受け入れ

◎隼Lab.これからの取り組み

- ・八頭未来の田舎プロジェクトの推進
 - ・地域課題の解決に向けた取り組みを創出・推進するプラットフォームを構築
 - ・地域が抱える課題をプロジェクトとして提示し、その解決に参加したい企業を募る
 - ・地域の拠点から地域外の企業も巻き込み課題解決を目指す

米子市（鳥取県）

【視察項目】5歳児健康診査（5歳児よなごっ子健診）の取組みについて

【目的】5歳児健診の内容や方法、健診後の対応について学ぶ

【内容】

◎5歳児健診導入の経緯

- ・平成17年3月31日 米子市と淀江町が合併し新「米子市」が誕生

【旧淀江町での5歳児健診】

- ・平成16年度～ 5歳児健診開始
- ・町内の保育園(3園)ごとに日程を設定し支所で実施。約20人×3日間
- ・合併後、平成17、18年度は旧淀江町で実施

【合併時の状況】

- ・合併時点では、米子市での健診はなし
- ・平成18年度から検討開始し、発達相談、巡回相談、就学前教室を実施することに決定

【合併後】

- 平成19～20年度 発達相談、巡回相談、就学前教室を実施
就学前教室は参加者が少なく小集団が作れないため中止
- 平成21年度～ 発達相談、巡回相談、個別相談を実施
- 平成24年11月 「全ての子どもを対象とする5歳児健診の実施に向けた調査・検討の着手に関する陳情書」
- 平成24年12月 市議会 定例会受理陳情審議 継続調査
- 平成25年3月 市議会 定例会受理陳情審議 採択
- 平成25年5月 「米子市5歳児健診の在り方検討会」設置
- 平成27年度 最終まとめ、市長へ答申
- 平成28年度 健診の具体的な実施方法を検討
- 平成30年度 5歳児よなごっ子健診 実施開始

◎一次アンケートについて

【対象】年度中に5歳に達する全幼児(年中児)

【流れ】(1)生まれ月ごとに年4回に分けて自宅へ郵送

(2)保護者によるアンケート記入、返送

集団での様子を通園施設等の先生と共有したうえで、日頃の様子や質問について記入 返信用封筒で返信

(3)アンケート締切日から一か月後に郵送で結果通知、対象者は相談会案内

【内容】質問紙(SDQ)によるスクリーニング

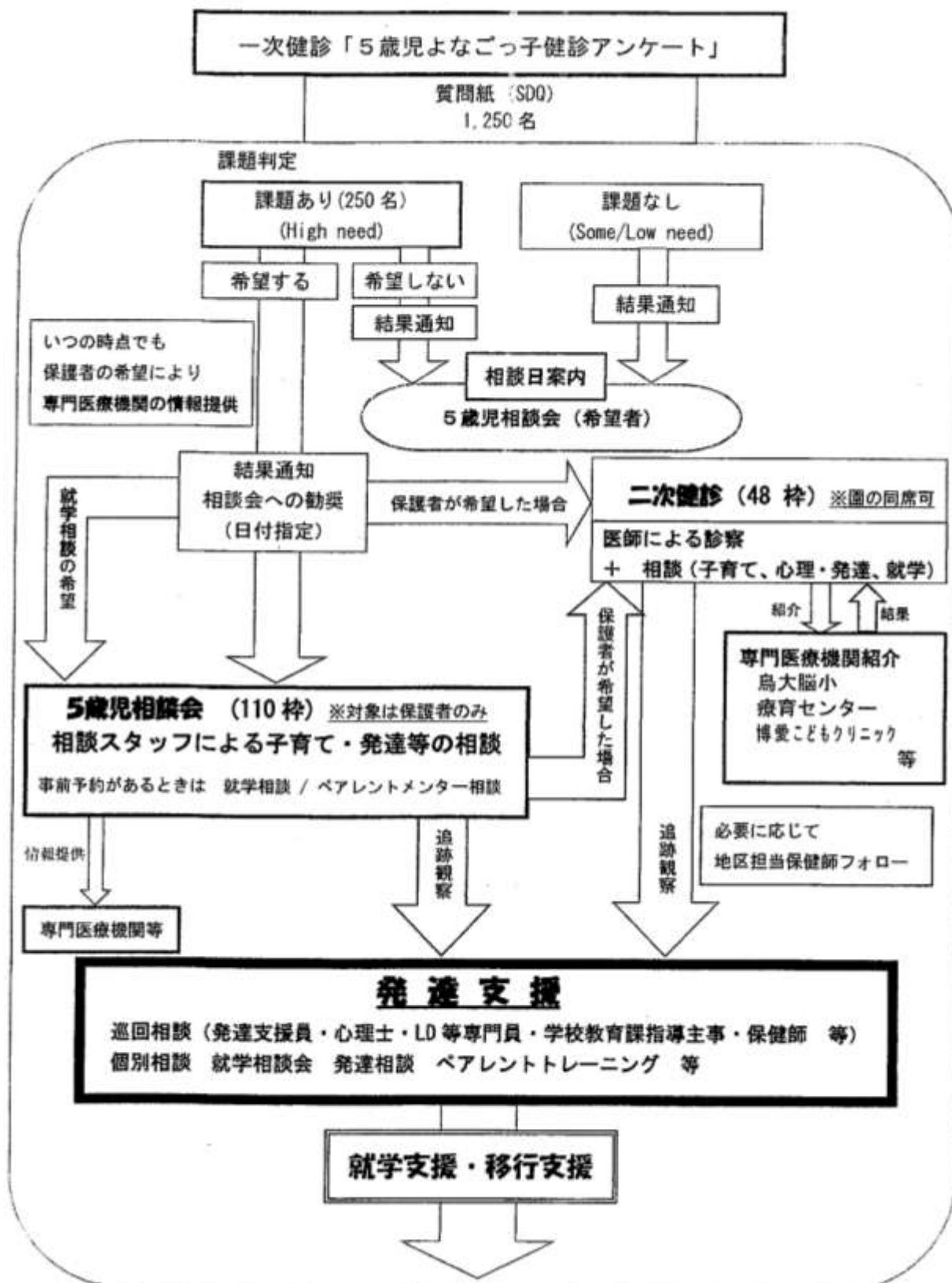
保護者の回答を3段階(支援の必要性が「低い」「いくらかある」「ある」)で評価する

◎未回答者への対応

- ・はがきによる勧奨、再勧奨を行う。
- ・回答を希望しない場合は、理由や医療・療育の受診歴の有無などを申請いただき、その際に相談窓口の案内を行う。
- ・年度末に相談事業の利用案内と「5歳児かわり方のコツ」のチラシを郵送し、相談の勧奨を行う。
- ・集団で課題が見られる場合、通園施設等から巡回相談や個別相談の勧奨など他の発達支援事業でサポートを行う。

◎支援の流れ

令和6年度「5歳児よなごっ子健診」と支援の流れ



◎令和5年度 受診結果内訳(精密検査 17 人)

自閉スペクトラム症	3 人
注意欠損多動障害	4 人
自閉スペクトラム症、注意欠陥多動障害	4 人
自閉スペクトラム症、愛着形成障害	1 人
注意欠陥多動障害、発達性協調運動障害 (DCD)	1 人
注意欠陥多動障害、言語発達遅滞	1 人
知的障害	1 人
知的障害、聴覚過敏	1 人
自閉スペクトラム症、注意欠陥多動障害、発達性協調運動障害	1 人

◎健診後フォローアップ体制について

- ①医師より専門医療機関 紹介 (相談会は医療機関の情報提供のみ)
- ②巡回相談(スタッフは、発達支援員、心理士、LD 等専門員、学校教育課指導主事、地区担当保健師、家庭児童相談室相談員 等)
- ③就学相談(教育委員会指導主事が園訪問、個別相談等)
- ④個別相談
- ⑤地区担当保健師、家庭児童相談室相談員によるフォロー

※医療紹介になった児のフォローアップ体制

医療機関から今後のフォロー方針について結果を受ける。それを踏まえて巡回相談や個別相談、指導主事の園訪問などにより、安心して就学が迎えられるよう支援を行う。

◎就学支援体制

- ・就学相談
- ・巡回相談 (学校教育課指導主事、LD 等専門員同席)
- ・保幼小合同情報交換会
- ・すこやか伝達シート
- ・就学支援シート
- ・個別の教育支援計画 等

◎5 歳児健診で発達障がいのあるお子さんが見落とされるケースについて

- ・質問紙 SDQ で見落とされやすい事例として

MR (知的能力障害)、DCD (発達性協調運動障害) は実態としてある。

○八頭町 「隼 Lab. の取組みについて」

隼小学校の閉校の後、コミュニティー複合施設として、民間出資会社、地域、町行政が連携してすばらしく運営されている。

町として、2015年に総合戦略プランで「空き施設をサテライトオフィスにする企業誘致によって、革新的な起業家を創造する」としている。民間主導に決め、プロポーザルで事業プランを策定し、それに基づいて隼 Lab.の運営主体の会社と「隼地区及び隼 Lab.連携運営協議会」を設立している。7社の民間企業が出資する（株）シーセブンハヤブサと行政と地域住民がうまく連携して運営されている。イベント数は年間200回を超え、町のふるさと納税支援業務や移住定住センター業務等を（株）シーセブンハヤブサが受託したりして、地域課題の解決へ向けていろんな取組がなされている。

学校閉校後の活用については、戦略プランを立てて、民間企業のノウハウを活かした取組ができるよう努力していく必要がある。

○米子市 「5歳児健康診査（5歳児よなごっ子健診）の取組みについて」

平成25年に「全ての子どもを対象とする5歳児健診の実施に向けた調査・検討の着手に関する陳情書」が採択され、その在り方検討会が設置。その答申を受けて平成28,29年と健診の具体的な実施方法が検討され、平成30年度から実施されている。じっくり検討されたようで、健診後のフォロー体制がしっかりしていると感じました。1次アンケートも回収率90%以上で、未回答者には再々、勧奨したり、回答を希望しない理由や状況把握をしたり、相談の勧奨等をして、すべての子どもに対応されています。アンケートの評価も、SDQスコア評価表に基づいて綿密に行われている。

加西市でも5歳児健診を実施するにあたって、発達支援員、心理士、LD等専門員、保健師等の体制とそのスキルアップをして、しっかり整備していくことが必要と思う。米子市の保健師さんが言われていましたが、「子どもの特性に対して、直そうとするのではなく、その子の能力を伸ばすために周りがどう係っていくかが大切です。」と言われたのが印象的です。1人1人を大切にしたい取組がなされていると思いました。

（鳥取県八頭町） 隼 Lab.の取組みについて

隼小学校跡地を活用し、企業や起業家、地域住民が集う拠点を整備された隼ラボ。国の地方創生拠点整備事業の取組はあっただろう。ただ、今回の視察で一番感じたことは、どの地域でも抱える問題をいち早く察知し行動に移していかれたことだろうと感じる。ポイントは2点。町民の思いである①学校は地域のシンボルであること。②コミュニティ機能を残すこと。このことをもとに、行政は動き民間に経営を任せられ成功されている。聞くところによると、隼 Lab.の運営に関わっている会社は県内でも活躍されている会社が多く、町民や行政との連携もしっかりされてきた。加西市においても、跡地利用に企業を誘致することはあるだろうが、そこに、複合的にコミュニティ機能を入れていくことは重要であると考えます。そして、何よりも市民、住民の思いを入れることが望ましい。

（鳥取県米子市） 5歳児健康診査（5歳児よなごっ子健診）の取組みについて

米子市の5歳児健診取組の素晴らしいところは、2点。1点目は、地方行政にとっては頭の痛い問題である医師不足である。少ない医師の中で5歳児健診が本当にできるのかということを考えられながら進めていかれたことである。市議会として、「米子市5歳児健診の在り方検討委員会」を設置され、市長へ答申。具体的な実施方法を検討後、本格的な実施にいたっている。それが、その後の関係各所との連携になっている。2点目は、健診後の対応の大切さである。健診後の対応として、フォローアップ体制や就学支援体制をしっかりと行われている。

加西市においては、来年度から実施されるが、健診後の対応までこそが、本当の意味で重要ではないのかと、米子市の取組から考える次第である。そのためには、早期の関係各所の話し合い及び連携の取組が必要である。保護者、子ども達にとって5歳児健診が安心して生活や学びができることにつながるよう努力するべきである。

【鳥取県八頭町】 隼 Lab.の取組みについて

隼 Lab.では、地域からの活用要望を受け、プロジェクトの検討初期から地域住民が主体的に参画している。どのように活用するかを協議する住民の会を「関わり白」として設け、議論を進めており、これは住民の理解を深めると共に、活用後の関わりを促す上でも重要な取り組みであると考えている。本市においても意見交換の場は設けられているが、住民が主体的に関わりを求める場合に隼 Lab.の事例を参考にすべきだと感じた。

また、運営体制については、住民によって組織された団体が施設内に拠点を構えつつ、運営主体の企業とも協議会を立ち上げ、連携体制を整備していた。このような地域との距離感の近さが、地域課題を取り上げやすい環境を生み出しており、その結果、シェアオフィスには約 40 の企業が入居しているという説明があった。こうした事例から、本市においても地域とともに施設を創り上げる姿勢が必要であると感じた。

運営主体の企業については、計画段階から参画した 7 社の民間企業が出資し、行政からの補助金や助成金に頼らず設立されている。もともとこの地域には挑戦を支える土壌があり、リーダーシップを発揮できる環境が整っていたことが、プロジェクトの成功において重要な要素であったと考える。そのため、このような立ち上げ方は、地域の特性によって左右される部分が大きいと感じた。

今後、加西市では令和 12 年にかけて 8 カ所の学校跡地が発生する予定である。それぞれの地域の意見や特性を踏まえつつ、専門的な知見も取り入れながら、計画的に活用を検討していく必要がある。

【鳥取県米子市】 5 歳児健康診査（5 歳児よなごっ子健診）の取組みについて

米子市における「5 歳児よなごっ子健診」は、全国的にも事例が少ない中で先駆的に実施され、これまで試行錯誤を重ねながらサービスの向上に努めてこられたとのことであり、本市に大変参考となる取組であった。

1 次健診では、アンケート（SDQ）を活用したスクリーニングによって見落としを防ぐ工夫がなされているが、それでもなお把握が難しい事例があるとのことであった。また、相談を希望しない保護者への支援が適切に行き届いているかについても確認を行い、通園施設と連携しながら必要な支援が提供されている。こうした点からも、通園施設との連携が重要であると改めて認識した。

米子市では、保育施設ごとの支援の格差を生じさせないため、公立園において保育リーダーの指導体制を整備するとともに、保育士のスキル向上の機会を設けている。また、就学支援についても、フォローアップの巡回相談や LD 等の専門員による支援が行われており、児童が円滑かつ安心して就学につながるような体制が構築されていることが確認できた。

担当の保健師からは、「保護者に寄り添いながら、子どもを取り巻く環境を整備していくことが重要であり、特に健診後のフォロー体制が大切である」との言葉があった。本市においても、令和 7 年度よりグループ形式での 5 歳児健診の実施が予定されるが、見落としのないよう十分に留意するとともに、健診後の就学支援においても保護者に寄り添った取組を推進していただきたい。

本取組は、複数の課にまたがる事業であることから、十分に連携を図りながら、より効果的な支援が提供されることを期待する。

「鳥取県八頭町」 隼 Lab. の取り組みについて

加西市にとって喫緊の課題である廃校利用について学ばせていただいた。

八頭町では、生徒の減少、複式学級も増え廃校になった学校を利用し、コミュニティ複合施設となった。人口減少の課題は、当市とも変わらないが、しっかりと形になっていた。

6年間しっかりと続いているのは、立ち上げに企業、行政、金融機関、地域の方々がしっかりと関わっているため、満足のいく形となっているように感じた。子ども達から高齢者の方々まで集まる場所にもなっており、地域の方々だけでなく他の地域からも来所しているため、大きなコミュニティとなっていると思う。取り組み状況にしても、ソフト面をしっかりと検討されたことも素晴らしい取り組みの形であった。行政の力の入れ方も素晴らしかったが、やはり、地域の中で一人先頭をきって進めて行く方がおられたからこそ進めることもできたと思う。加西市においてもそのような人材を育てていく事も大きな課題となる。

「鳥取県米子市」 5歳児健康診査（5歳児よなごっ子健診）の取り組みについて

加西市も来年度から始まる5歳児健診について、先進的な取り組みを学ばせていただいた。5歳児健診に関しては、とても重要な取り組みであり、進めて行くべきものであるが、米子市では、一次アンケート健診、二次健診、相談会、支援へとつながっており、一連の取り組みがしっかりしている。5歳児健診で、発達障がいのお子さんが見落とされる事のないように電子申請を取り入れたり、巡回相談、個別相談などもされている。

しかし、健診後のフォローアップ体制については、専門の医療関係、巡回の相談スタッフ、教育委員会の指導主事による就学相談、個別相談や地区担当のフォローなどしっかりしており検査によって我が子の発達障がいについて知った後がもっと大事であると考えます。米子市では、子ども総本部 子ども相談課があり、その課と、園、学校、教育委員会とが一体的に連携がとられており、一連の連携が必須であると学んだ。

保護者として、満足いく結果もたくさん事例としてあるため、加西市も学んで実行するべきであると考えます。

【鳥取県八頭町】 隼 Lab.の取り組みについて

平成29年(2017年)3月に閉校となった旧隼小学校を改装し、12月に隼 Lab.という名称で東京の企業などのサテライトオフィスを中心とした企業活動が始まった。運営は民間7社の代表で構成された(株)シーセブンハヤブサという組織が中心となり、行政の運営補助金には頼らず、独立採算制で持続的な運営をされていた。

また、隼 Lab.の運営をサポートする隼創生会という住民組織があり、住民と企業が連携し敷地内の草刈りや清掃、祭りなどの行事を通して親睦を深め、地域コミュニティの維持と活性化を図っておられた。加西市においても、進出企業と地域の方が親睦を深め協力していくことで、核としての学校という形態が無くなっても、人が集まる場として何とか地域を盛りたてていけるのではと感じた。

旧隼小学校は30年前に新耐震基準で建築された建物でまだまだ新しく、50mプールも完備された学校であったが、全校児童が30名ほどになり閉校となった。折しも平成26年(2014年)、八頭町出身の石破茂総理(現在)が地方創生大臣に就任し、鳥取県の活性化プランのさきがけとして、この隼 Lab.計画が計画・実行されたとのことで、八頭町の支出である学校改装費2億円弱の半分以上が地方創生拠点整備交付金で充当され、低資金で働きやすい職場環境が構築され、現在は八頭町住民の方の起業も増えて順調に推移しているとのことであった。この政治的なきっかけも地方に東京の企業が進出する大きな要素であると改めて感じた。ともあれ地域住民が集まる場として、レストランも併設され、こたつで憩える空間があり、地域の人を大切に考えておられると感じた。

加西市においても小学校は地域の集いの場として、たとえ閉校になっても、子供たちが地域を誇りに思う催しや祭りの場として、協力してくれる企業活動や、公民館的な活動拠点として整備していくことが重要であると強く感じた。

【鳥取県米子市】 5歳児健康診査(5歳児よなごっ子健診)の取り組みについて

米子市の5歳児健診は平成17年に米子市と淀江町が合併した時、旧淀江町で実施されていた5歳児健診を引き継ぐ形で始まり、平成18年からは一部希望者のみの個別相談から開始、その後、医師や保健師、心理士、発達支援員などの確保、担当部局の調整など課題解決に慎重に取り組み、平成30年度に現在の全市的な5歳児よなごっ子健診が始まった。この健診方法は先ず、一次アンケートとしてSDQスコア評価表に子ども達の状態を見ながら、保護者の方がチェックしていく方式で、例として「おちつきがなく、長い間じっとしてられない」に対して、『あてはまる、ややあてはまる、あてはまらない』という三つから選んで点数化していくもので25項目あり、この点数評価で課題があると判断された児童を次のステップである相談会に集めて、医師、心理士、発達支援員、保健師、学校教育課指導主事などが面談し、支援の可否を判断、保護者に確認をしてから、後の適切な医療的、教育的フォローにつないでいく体制が確立されていた。令和5年度の対象者は1,253名で1,166名(93.1%)がアンケートに回答し、相談会対象者は121名、そして支援が必要と判断された幼児は41名で、医師の診察、臨床心理士による行動観察など、その後の手厚いフォローで就学への手助けをされている。

この健診を担うのはこども総本部のこども相談課であるが、同庁舎には教育委員会事務局があり、子育てに悩む保護者を市長部局と教員委員会が共に支える仕組みができていた。担当の保健師より「子供たちの成長にとって、小学校に上がる時の心の不安や苦しさを早くわかってあげることで学校生活がより有意義なものになる」ので、しっかりと子供たちを支え、保護者の不安な気持ちを和らげていきたいと言われた言葉にやさしさと使命感を強く感じた。

加西市においても5歳児健診がまもなくスタートされるが、子供たちの健やかな成長と豊かな心を育てる基礎として、しっかりとした素晴らしい健診になるように努力して頂きたい。

①鳥取県八頭町「隼 Lab.の取り組みについて」

今の加西市には大いに参考になる取り組みである。いや参考にしなければならない成功事例である。地名にちなんだスズキのバイク名のイベントが下地にあるとは言え、見事な取り組みである。少子化により閉校される小学校、思い出のつまった学校を活用したいとの強い地域要望を、若者の挑戦を地域住民が支える形でマッチングさせて活用している凄い取り組みである。

起業家とビジネスパーソンと地域住民、さらに子育て世代と高齢者等々を、コミュニティ複合施設として実現させている。地域の課題意識を整理しながら共有するために、行政として総合戦略策定にむけて、行政の若手職員や地域の高校生との意見交換会等を実施して幅広い検討体制をとりながら議論されたという。今の加西市の取り組みで欠落しているポイントである。時々の国の補助や支援を最大活用しながら、事業継続には県費の委託事業も活用されている。

事業説明を受けて質疑応答、終始同席して補足説明をいただいた地元副議長にも感謝したい。その後、3 階建ての元小学校を施設見学。これまた見事な改修活用に感嘆した。勉強になりました。

②鳥取県米子市「5 歳児健康審査（5 歳児よなごっ子健診）の取り組みについて」

合併した旧町での 5 歳児健診が、議会への陳情書採択で検討会が立ちあがり、具体的に実施方法を検討して開始されたとのこと。切れ目のない子育て支援は、行き届いていて充実した連携体制は参考になる。

一次健診としての健診アンケート、二次健診と 5 歳児相談会等、充実した内容の流れは、巡回相談や個別相談に確実に生かされている。教育委員会を含めて行政として最大の就学支援や移行支援の体制が確立されており、学ぶところが多い。フォローアップの巡回等で就学に向けた具体的なアドバイスで安心して準備ができたとか、通常学級か特別支援学級か悩んだが子にとってどのような環境がよいか説明をうけて、安心して学びの場を検討できたとの保護者の声は容易に想像できる。きめの細かい支援こそが重要だと教えていただいた。

(添付資料)

① 視察行程表

清流会・かさいを育む会 行政視察 行程表

全行程が車での移動となります。

2月6日(木)

10:30 発 加西市役所：議員駐車場集合

12:30 着 河原 IC (鳥取自動車道)

～昼食～

13:40 着 隼 Lab. (※河原 IC から車で約10分)

14:00～15:30 鳥取県八頭町視察

「隼 Lab. の取組みについて」

※視察場所 隼 Lab. 八頭郡八頭町見槻中154-2

※車で2時間程度

宿泊 グリーンリッチホテル TEL 0859-36-0500 鳥取県米子市明治町175

2月7日(金)

09:15 ホテル出発 ※会場まで車で約10分

09:30 着 ふれあいの里

10:00～11:30 米子市視察

「5歳児健康診査(5歳児よなごっ子健診)の取組みについて」

※視察場所 ふれあいの里(米子市福祉保健総合センター)4階研修室

米子市錦町一丁目139番地3

～(昼食)～

※14:00 発→17:00 加西市役所着

② 研修資料

別添のとおり

③ 写真



八頭町



米子市